

ありがとう
みんなの心に

清兵衛さん



西方寺
さざんか寺で知られている
清兵衛さんの菩提寺



今田市原にある
「市原清兵衛生誕の地」の碑

皆さんは丹波杜氏の功労者「清兵衛さん」のことをご存じでしょうか？江戸時代、丹波篠山地方の多くの農民は酒造出稼ぎで生活を支えてきました。ところがあるとき、出稼ぎ禁止令が出され、農民は困窮しました。そんな農民の生活を救い、丹波篠山の誇る酒文化を守ったのが「清兵衛さん」でした。今回は清兵衛さんの遺徳をたたえ誕生した「清兵衛まつり」についてお伝えします。

偉業を成し遂げた 今田、市原村の清兵衛さん

デカンシヨ節には、次のような歌詞があります。「灘の銘酒はどなたがつくる おらが自慢の丹波杜氏」。

丹波杜氏の人たちは、卓越した技術を持った職能集団として灘五郷をはじめ、全国の酒造家に雇われ、今日の酒文化を築いてきました。

記録によると丹波篠山地方の酒造出稼ぎは1688年頃から始まり、1955年において酒造出稼ぎ労働者は2026人。多くの人々の生活を支え、300年以上の実績を重ねてきました。

このような歴史を持つなかで、丹波篠山では江戸時代に農民の生活や酒文化に危機が直面したことがあります。

江戸時代の丹波篠山の農民は、稲刈りが終わると9月から冬季の間、摂津灘・伊丹・池田などへ出向き、酒造出稼ぎをして生活を支

えていました。

しかし、農民が酒造出稼ぎに向くことで、稲作の準備が滞ることや年貢米が減少してしまうことを恐れた篠山藩は、厳しい出稼ぎ禁止令を発しました。収入が減り、苦しむ農民たち。そこで1800年、市原村の清兵衛が立ち上がり、息子である佐七を伴い、当時篠山藩主だった青山忠裕に禁止令を解いてもらうよう江戸に向かい、直談判したところ捕らえられ、約10年間獄中生活を送ります。

2人は捕らえられましたが、2人の訴えによって丹波篠山の農民の現状を知った藩主忠裕は、2年後の1802年に出稼ぎ禁止令を解きます。こうして丹波篠山地方の杜氏の文化が全国に根差し、今なお継続され、農民の生活が守られたのです。

4.26
(土)

「第1回 清兵衛まつり」



歌や踊りの音楽イベントも盛大に



丹波杜氏による酒造り唄の奉納



祭壇には丹波杜氏が勤めている24社が奉納した新酒や丹波焼が並べられ、親子の遺徳をたたえ法要



地元グルメも並び、
来場の皆さんほっこり



丹波地域7蔵の名酒がずらり。
新酒の試飲も楽しめました



今田の名産、丹波焼オリジナル酒器のプレゼントもありました

林住職へインタビュー

地域の誇り「清兵衛さん」を伝えたい！ 清兵衛まつりで地域文化をつなぎ、地域を明るく元気に！

2年前の3月に、今田町今田新田にある「西方寺」に入山しました。これまで市原清兵衛の菩提寺として、清兵衛さん親子を西方寺のみで供養してきました。しかし、命をかけて農民を守ったこの2人をより多くの人に知ってもらいたい、遺徳をたたえ、地域の文化をつなぎ、地域をより活性化したいと発起。丹波杜氏組合、丹波・篠山酒造組合、丹波立杭陶磁器協同組合に賛同していただき、多くの協力のなか「第1回 清兵衛まつり」を開催することができました。今後も「清兵衛まつり」で市民の交流の場をつくり、地域文化をつなぎ発信し、地域の発展に努めます。



西方寺 住職
林 昌伸さん

リポーター後記



リポーター
畑弘恵さん



江戸時代から令和へ 受け継ぐ清兵衛さんの思い

「第1回 清兵衛まつり」を開催するにあたり、林住職は「さまざまな方とご縁があり、どんどん話が進んでいった」と話されました。偶然なのか必然なのか、人の巡り合わせに奇跡を感じます。清兵衛さんの命をかけた勇気ある行動が、農民に希望をあたえてくれたように、林住職の思いや行動で、また新しく地域にともなひの輪が広がる思いを感じました。江戸時代から続く清兵衛さんの魂が、いつまでも消えることなく輝き続ける丹波篠山であってほしいと思います。